

育ちの芽

園長 安達 巡

通常保育の再開にあたって

令和2年度の始まりは2か月遅れとなってしまいました。改めまして、『入園・進級おめでとうございます！』お子さんの成長をお祝いすると共に、これから始まる幼稚園生活について、保護者の皆さん方とも共通理解を図りながら、一步一步前に進んでいきたいと思っております。まずは皆さん方もご承知のように、この1年は（1年ではすまないかもしれませんが）、例年通りに進んでいくことが困難であるということをご理解ください。

そのため年少組のご家族の皆さんに対しましても、入園式が開催できなかったこと、とても気の毒で残念に思います。感染予防の観点から、入園式に代わるオリエンテーションを開催するにしても様々な制限があった中（1室に入れる人数は親子合わせて15人まで、在園児は出席しない、歌は歌わない、園長あいさつと担任紹介のみ等）、幼い子ども達にとって、できるだけ有意義な始まりにしたいと考え、今後の保育にスムーズに入れることと「また幼稚園にきたい！」と感じてくれることを願い、あのような親子登園の形式とさせていただいたと思います。

また進級児の子ども達についても、長引く自粛生活の中、ニュース等で新型コロナウイルスの情報を知ることにより、感染不安に心を痛めたり、心身に影響が出たりしていないかも、とても心配でした。そんな子ども達が少しでも元気になれるように、また幼稚園再開を楽しみに待っていてくれるようにと、園から動画配信を続けていたところ、時には幼稚園のポストに「〇〇が、楽しかったよ🍀」と書かれたお手紙が入っていたり、保護者の方々からも喜びの声を聞くことができました。そんな反響が教職員にとっても、「たとえみんなと会えなくとも、みんなとつながっていられる」と感じられ、画面の向こうに広がる笑顔を想像することができて、大きな励みとなりました！

子どもの健全な育ちを支えるために

幼稚園再開に向けての感染防止対策について、幼稚園や保育園の園長仲間とリモート会議をしていた時のこと、ある衝撃的な画像を紹介してもらいました。

<https://www.facebook.com/watch/?v=289203085435216>

（ソーシャルディスタンスの名の下に、行動制限をされる幼稚園児の様子）

中庭では、1人ずつチョークで描かれた四角の中に入り、その中だけで跳んだり座り込んで一人遊びするだけであったり・・・登園時にも1人ずつ、印が書かれた場所に座って待っている

様子が映し出されていたのですが、家が恋しく泣いている子がいても、先生達は慰めることも触ることもできない・・・

これを観た瞬間、まるで近未来を描く SF 映画のように感じ、「これが今後の保育のスタンダードになってしまったら、どうしよう？」とある種の恐怖と不安を感じました。けれども撮影していたカメラマンの「幼稚園の役割を果たしていない」「違和感を感じる」等のコメントを見て少し安堵したのですが・・・。本園でも、もちろん感染予防には努めていきますが、この画像のような保育形態は元々想定していませんし、たとえこの形態の方が、感染リスクが軽減されるとしても、これでは幼稚園を再開する意味が無いと考えます。

たとえば本園の自主登園日の様子では、親御さんと離れるのが不安で泣いて登園する子ども達は、先生達に抱っこされ気持ちが落ち着くまでは膝の上に座っていたり。また進級児でも先生に甘えたい子は、おんぶしてもらっていたり。コーナー遊びでは、先生が子どもの傍らに寄り添いながら、遊び方を知らせたり促してみたり。園庭では自由にのびのびと、遊具で遊んでいたりと、スケーターや三輪車で走り回ったり。また自主登園が始まってから、園庭に新たな砂を入れてみたところ、砂山に気づいたとたん大きなスコップで掘り始め、友達と協力し合って水を汲んで流しだし、中には泥んこ遊びまで始める子もいて、ダイナミックな遊びに発展していました。このように先生と子ども、そして子ども同士が関わり合いながら、遊びや活動に取り組んでいくことが、子どもの健全な育ちを支えるための、幼稚園現場における日常であるということを、保護者の皆さん方にもどうかご理解いただきたいと思えます。

気をつけていきたいこと・気をつけるべきこと

前述のように、幼稚園や保育園といった幼い子どもの集まる施設には、子どもの育ちを支えるためにも、どうしても避けられない「密」がたくさんあります。だからと言って全てを、しかたないと済ましていいわけではありません。5月4日付で厚労省からも『新しい生活様式』の提言が発表されましたが、

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

これからの時代を生きていく子ども達にとっても、感染予防に対する生活習慣や行動様式を身につけていくことは重要と考えます。そのため園から5月27日に配信した『新型コロナウイルス感染症予防についての取り組みとお願い』の内容が、子ども達の身につくよう、日々の保育で取り組んでいきます。

そして保護者の皆さん方にも、参考にしていただきたいと思いますのですが、

5月20日付で日本小児科学会から、<https://www.jpeds.or.jp/>

【小児の新型コロナウイルス感染症に関する医学的知見の現状】が発表されました。

概要を抜粋しますと・・・

○COVID-19 患者の中で小児が占める割合は少なく、その殆どは家族内感染である。

○現時点では、学校や保育所におけるクラスターは無いが、あるとしても極めて稀と考えられる。

○小児では成人と比べて軽傷で、死亡例も殆どない。

○殆どの小児 COVID-19 症例は経過観察または対症療法で十分とされている

○教育・保育・療育・医療福祉施設等の閉鎖が、子どもの心身を脅かしており、小児に関しては COVID-19 関連健康被害の方が問題と思われる。

これらの内容を見ますと、まず大人がしっかりと（私ども教職員も含め保護者の皆さん方）、感染予防に努めることが、『子どもの健全な育ちと安全』が守れることに気づきます。

また子ども達の、安全な幼稚園生活を守るためには、保護者の皆さん方にはご自身を含めたご家族全員の健康管理への留意だけでなく、今後も我慢をお願いすることも多々あります。まず社会的な行動範囲が広いと、感染リスクが高い大人の方達には、今までのように気軽に園内に入っただけいけないことや集まっただけいけないこと。そして今後の人が大勢集まる行事についても、例年通りに開催できるかどうか不明・・・等です。

その分、子ども達の日々の様子や成長の足跡等は、保護者の皆さんにもしっかりと伝わるよう、教職員も工夫していくことを考えています。いまだ収束の目処は立たず、長いマラソンのように感じますが、力を合わせて乗り切っていけるよう、どうかご理解とご協力よろしく願いいたします。

今年度の取り組み ～ハード面～

例年、母の会総会や保護者懇談会において、新年度に向けての取り組み内容についても、お話しておりましたが、突然の臨時休園によりその場を失ってしまいましたので、こちらの紙面にいくつか報告させていただきます。

○トイレ改修工事

昨年度より、園舎竣工 50 周年（昭和 54 年竣工）に向けての改修工事に取り組み始め、2019 年度事業の図書室改修工事は無事に終了しました。引き続き今年度事業としましては、夏休み期間中（7 月 18 日～8 月 30 日）にトイレ改修工事 2 か所（しろ・れんげ隣）を予定しています。現行のトイレは、水で洗い流すタイプの“湿式”でしたが、順次“乾式”に改修していきます。業者の調査によりますと、以前より不具合のあった下水配管の老朽化が激しく、目に見えない部分、地中工事が大がかりになることがわかりました。そのため今年度中には、全てのトイレは改修できないことと、工事期間中にも何かとご不便かけますが、ご理解ご協力よろしく願いいたします。

○ジアイーノ設置

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、私立幼稚園に対しても緊急環境整備として、『大阪府教育支援体制整備事業補助金』の案内がありました。対象事業としては、「マスク・消毒液の消耗品や空気清浄機等の感染防止に必要な備品」とありましたので、今回は

除菌・脱臭に優れた効果があるとされる、次亜塩素酸 空間除菌脱臭機（ジアイーノ）を設置することにしました。ただし予算が限られていますので、今回の臨時休園を要請された後も、開所の指示を受け長時間保育で使用していた保育室（ホーム・のびのび）から設置していきますこと、ご了承ください。

○『災害に強く・環境に優しい』施設づくりを目指して

これから育っていく子ども達の未来を考えた時・・・今回のような感染症災害だけでなく自然災害（地震・台風等）への対応に加え、環境問題も大きな課題と考えます。そのためこの春休みには、15年前に設置した太陽光のメンテナンスを行い、今後は想定外の災害の備えとして、停電時にも対応できるよう蓄電池の設置も計画しています。また自然エネルギーや再エネルギーの導入も視野に入れ、環境に優しい施設づくりを目指します。

ピンチをチャンスに！！

以上、長々と書きましたが、最後にどうしてもお伝えしたかったことです。

一昨年、幼稚園教育要領が改訂されて以来、本園でも『より主体的に』『より対話的に』保育を進めてきました。まず改定以来1年目に当たる一昨年は、日々の保育を見直し、そこで培った子ども達の力をベースに、昨年は行事の内容についても、子ども達の主体性を重視しながら取り組んできました。保育の見直し当初は、『子どもが主体的って？』『子どもに任せるなんて本当にできるの？』等々、不安の声も聞こえてきたのですが・・・

昨年、年長児が様々に案を出し合い、年中児・年少児みんなを引っ張ってってくれた、『たなばたまつり』を終えた後、保護者の方から

「今までの“たなばたまつり”の中で、いちばん感動しました！」

との感想をお聞きした時、改めて【子どもの持つ力】を実感し頼もしく感じました。

そんな年長さん達の3学期が、突然として終わってしまったことを思い出すと、今でも涙がこみ上げてくるのですが・・・。けれども久しぶりに再会できた、園庭での卒園式の日。

子ども達も再会を喜び合うかのような、パワー溢れるキラキラ笑顔を見ていたら、

「今まで以上に幼稚園を、楽しくしてくれて、ありがとう！！」

心から、お礼の言葉が出ました。そしてこれから育っていく子ども達が、今回のような困難も逞しく乗り越え、切り開いていってくれることを信じ、

「ピンチをチャンスに！！」

というメッセージも贈りました。

今年度の行事等については、例年通りにいかないことも多々あると思いますが、引き続き子ども達の主体性と日々の生活を大切にしながら、保育に取り組んでいきます。今年の子供達からも、いったいどんなアイデアが飛び出してくるのでしょうか？今からとても楽しみです！